

「広域連携が鍵」

緊急物資輸送協力事業所研修会

【神奈川】神ト協は12日、緊急物資輸送協力事業所研修会を横浜市で開催し



東海林副会長

室を常設し、自治体との緊急物資輸送に関する協定

技幹が登壇。令和6年能登半島地震の被災地で、同県が行った支援について説明した。

た。会員事業者のほか、行政の防災担当者や他県トラック協会の関係者が出席した。

開会にあたり、同

協会の東海林憲彦副会長があいさつ。指定地方公共機関としての同協会の取り組みを紹介。防災対策

締結を進めるとともに、243事業者、293拠点が名乗りをあげ、協力体制を構築していると説明した。

前段は神奈川県くらし安全防災局防災部危機管理防災課の竹井亮太主査と消防保安課の小泉孝之副

後半は岩手県獣医師会理事で、食鳥検査センター所長を務める白岩利恵子氏が登壇。東日本大震災発災当時、岩手県職員として被災者への支援物資調達チームのリーダーとして活動した経験を語った。物資支援の実際

を行政の立場から解説したほか、支援物資の円滑な供給を実現するための受け入れ及び搬出体制を構築したことなどを説明。また、現場で出てきた課題を紹介した。

閉会にあたり、同



新村委員長

協会総務企画委員会災害対策小委員会の新村千成委員長があいさつ。「首都圏で発災した場合、広域連携というのが一つの鍵になっていく」と指摘。「関係各所と連携を深めながら横断的な対応ができるように、協会としても引き続き準備を進めてまいりたい」と述べた。

（田川侑史）